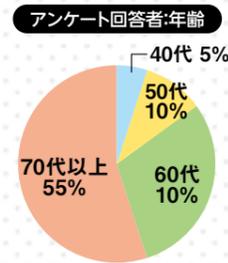




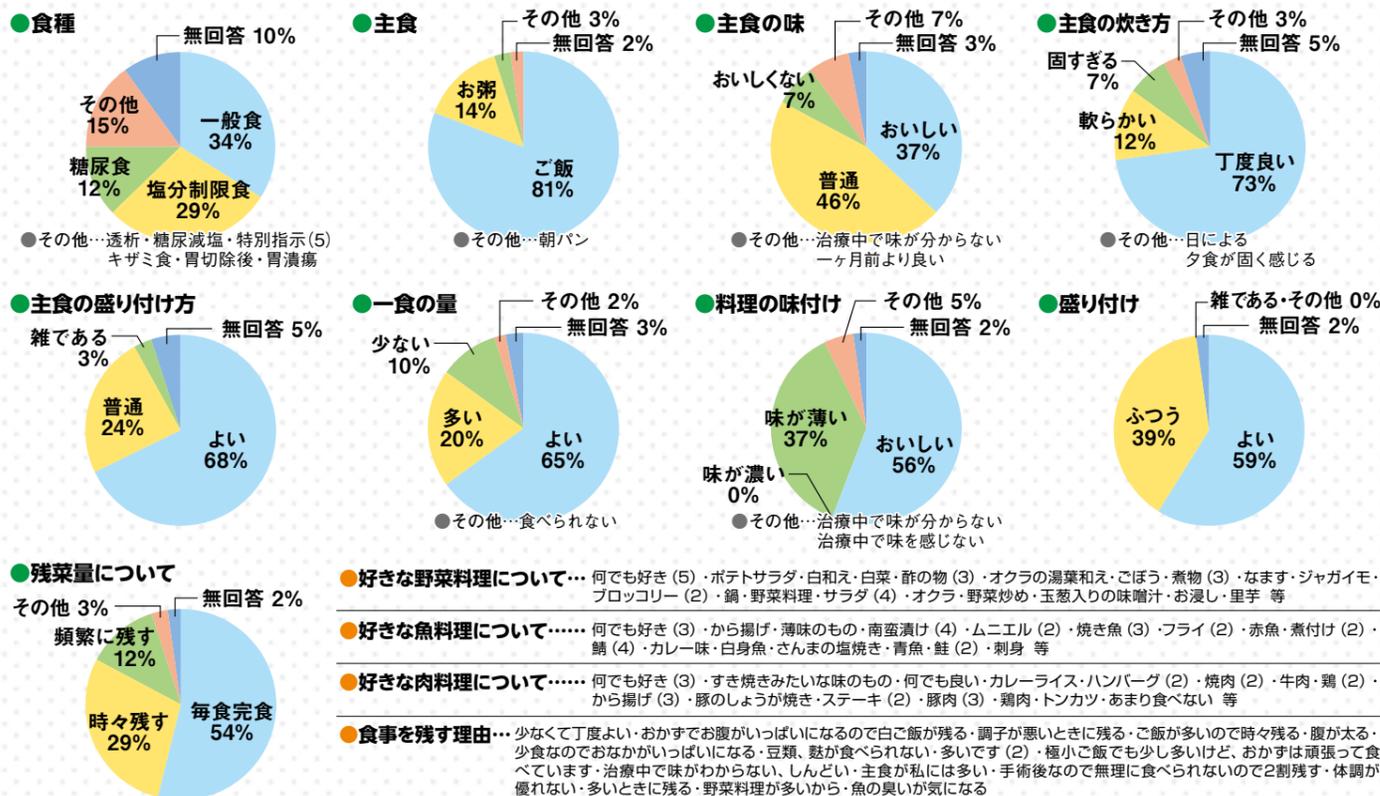
やさしい心で  
良質な医療を

## 食事アンケート結果(一般病棟)

当院では、入院患者様への食事アンケートを実施しております。今後もアンケート結果を踏まえながら、日々の業務に努めて参ります。アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。(栄養科より)



◀この食事は、昨年クリスマス時の昼食になります。患者様ごとの栄養を考えながら四季を感じる行事食をご提供しております。



## 病棟紹介

## 患者・家族の皆様安心して 退院支援を行います

3階病棟 大櫻 明美



JA吉田総合病院3階病棟は「地域包括ケア病棟」です。平成27年12月に一般病棟から変わりました。地域包括ケア病棟は、どのような病棟かという“在宅に復帰できるように関わらせていただく病棟”です。患者・家族の皆様安心して退院を迎えてもらうために医師・看護師・理学療法士・社会福祉士、地域の医療・福祉の関係者それぞれが専門の力を発揮し協力します。



ベッド数は50床、スタッフは看護師29名、看護補助者3名、クラーク1名です。一般病棟と違うところは、入院期間が60日以内でありその期間内での支援になること、退院に向けたリハビリテーションが主となることです。

入院の対象となるのは、  
①急性期の治療が終わり状態は安定したもの、すぐに自宅や施設等での療養に不安がある方

- ②在宅(施設)退院に向けてリハビリが必要な方
- ③在宅での療養準備が必要な方
- ④災害時等の緊急時の受け入れ
- ⑤自宅で介護しているご家族の方の休養が必要な時に、介護を受けている方の一時的な受け入れの5つになります。

地域包括ケア病棟では「患者・家族の皆様安心して退院してもらえるように質の高いケアを提供すること」をめざしています。住み慣れた地域の中で在宅療養するためにはリハビリテーションが欠かせません。リハビリテーションには理学療法士による訓練と看護師が病棟で行う機能訓練や生活リハビリがあります。具体的には歩行練習やベッド上のリハビリです。廊下には歩行した距離がわかるように工夫をしていますので進歩がわかります。生活リハビリでは、自宅の様子を知り食事・排泄・整容・入浴・洗濯など生活面が自分でできるように支援しています。レクリエーションも始め、笑顔で活

き活きと参加されています。今年からは看護師は理学療法士・社会福祉士と共に在宅の状況を知り病棟での機能訓練やサービスの調整を行うための退院支援訪問に同行しています。病棟スタッフは患者・家族の皆様とコミュニケーションをとり信頼関係を築くことを大切にしています。また生活に向けて意欲を高めもらえるように「患者・家族の皆様にとって何が一番良いのか」という思いで、話し合いの場を繰り返していき、理解をしてもらえるように努めています。今後も丁寧な対応を大切にし、在宅療養を支える方々との連携を強め、地域の皆様に利用してもらえる病棟になるよう取り組んでいきます。



## 第3回 院内医療安全研修会を開催しました

日時 ①平成30年11月26日(月) ②平成30年11月28日(水) 参加人数 ①136名 ②94名 合計230名

全職員を対象に院内医療安全研修会を開催しました。テーマは、「当院で実際にあったインシデントとその取り組み」とし、1.栄養科からアレルギー食に関する事案、2.放射線科からMRI撮影時の問診に関する事案、3.薬剤科から持参薬に関する事案の報告内容でした。実際の事例報告から改善対策までの報告があり、全職種で安全対策を再認識する機会となりました。その後、安芸高田警察署のご協力をいただき、警察官2名の方から、サスマタの使い方について指導がありました。要点はサスマタを使用する時は、腰では無く胸に押し当てたり、足にかけ引くことで、姿勢を崩すことを目的に使用する

こと、あくまで防御のために使用する説明がありました。参加した職員からは、「全職員に関する研修内容で良かった」「情報共有の大切さを再確認した」という意見があり、有意義な研修会となりました。今後も患者様の安全のために、研修会を開催してまいります。



平成30年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

**第2回 多職種連携研修会**

テーマ もっと知りたい福祉のこと もっと伝えたい福祉のことを

【日 時】平成30年10月25日(木) 18:30~20:00  
 【会 場】JA吉田総合病院 南館4階 大会議室  
 【参加者】69名  
 【対 象】安芸高田市内の医療・介護・福祉関連従事者

情報提供

「施設紹介と現状・課題について～相互理解と融合を目指して～」

(1) 社会福祉法人 たんぽぽ 施設長 三上 寿和 氏 (3) 特定非営利活動法人 貴船 施設長 新田 義明 氏  
 (2) 社会福祉法人 清風会サンホーム 管理者 児玉 哲弘 氏 (4) 社会福祉法人 ひとは福祉会 管理者 伊藤千代子 氏



今年度2回目の多職種連携研修会は、「障害・福祉」について学ぶ研修会として、まず、障害福祉施設の代表者から、障害福祉施設のこと・障害者の方への対応・支援内容・障害者の方の気持ち、苦労したこと等の情報提供がありました。

その後、医療・介護・福祉の関係者がどのように関わり支援出来るか、困っていることに対して何が出来るかの意見を出し合っって連携を深め、高齢者・障害者の区別なしに、今後を考える時間となりました。

今回の研修会は、皆様が日頃から気にされている事柄であり、多くの方にご参加していただきました。研修会後のアンケートでは、「仕事を通して関わることの少ない事業

所のことを深く知れて勉強になりました」「福祉は総合商社。障害を持たれていても高齢になれば、みんな同じになってくる」「当たり前前のごことが、当たり前前を受け止められて、それを支援に繋がられて、素晴らしいと感じました。障害があっても、目標を持って生活できる支援と場を提供されている。安芸高田市で生活できて良かったと感じられる仕事をされていて素晴らしい!!」とのご意見を多くいただきました。

今後も多職種連携の絆を深めながら、より住みやすい・助け合う安芸高田市が続いていくように、在宅医療・介護連携推進事業を進めて参ります。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



平成30年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

**平成30年度 第3回 ミニ市民公開講座**

テーマ：これからの季節に発病しやすい感染症と対策

【日 時】平成30年11月8日(木) 18:30~20:00  
 【参加者】34名



第3回となるミニ市民公開講座を開催しました。今回は寒くなって来たので「感染症」をテーマに皆さんと学びました。まず、当院内科 山口医師が、「これからの季節に発病しやすい感染症について」と題して、感染症にかかりやすい条件・感染症の種類を解りやすく説明しました。その後、感染管理認定看護師の田中主任が「お家で出



来る!感染対策について」と題して講演がありました。感染予防の基本である手洗いに焦点を当て、手洗い後にどれだけ綺麗になっているかを、ブラックライトで見る実

演も交えて行い、自分では洗っているつもりでも、指の間や手の甲の汚れが落ちていないことに、参加された皆様も驚かれていました。

公開講座後のアンケートでは、「とても分かりやすい講演でした」「手洗いの実習は、何回やっても上手に出来ませんが、きちんとしなくてはと思い直すきっかけとなったので、とても良かったです」等のご意見をいただきました。

今後の取り上げてもらいたいテーマでは、老化防止、体力の衰え対策・高血圧、高血糖・栄養のこと・薬の飲み方、飲み忘れ防止等がありました。皆さんの興味や、その時々話題に沿ってミニ市民公開講座を開催して参りますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

**第4回 市民公開講座を開催しました**

テーマ 「最期まで“笑顔”で生き抜く  
 ～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」



去る12月8日(土)安芸高田市民文化センターにおいて、「最期まで笑顔で生き抜く～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」をテーマとした第4回市民公開講座を開催しました。この講座は平成30年度安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業として、安芸高田市・芸北地対協との共催で安芸高田市医師会他17団体のご後援をいただき、当日は347名余りの方々にご参加されました。

JA吉田総合病院の科長会で作る「そよ風コーラス」の歌声でさわやかに幕開けし、住元病院長・浜田市長の挨拶と続きました。その後、JA吉田総合病院 地域医療連携室 部長 宮田 康史医師が「糖尿病のおさらい」について、整形外科 部長 山本りさこ医師が「腰痛にまつわるけがと病気」について講演しました。病院・関係機関職員等で作る「劇団安芸☆高田」による寸劇では、最期を迎える家族にどう対応したら良いか、また、どう対応したら良かったかを考えるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)\*の内容に、会場の皆様も感動しながら鑑賞されました。



その内容を踏まえ、特別講演として、「年をとっても自分らしく生きる」～ア



ドバンス・ケア・プランニングとともに～と題して、三原赤十字病院 呼吸器内科医師 有田 健一氏による講演がありました。最期まで自分らしく生きるた

めに大切にしている事柄を早くから、家族・病院職員と共有して自分の人生を終わらせることが、何よりも大事であるとのこと講演をいただき、ご参加された皆様も自分・家族の最期について、どう迎えるかを考える時間となりました。

閉会後のアンケートには、「有田先生の講演はよく理解出来た。早速家族と話し合ってみます」「自分らしく生きるために早くから(生きているうちから)家族に伝えておきたいと感じた」と最期のことを話しあいたい等多くのお声をいただきました。

最期まで延命治療を受けたいと思うのも1つの選択、自分の好きなように、苦痛が少なく逝きたいと思うのも1つの選択です。何を一番に考え選択するかは、その時々(健康な時・病気になった時・最期が近づいた時)で変わってきます。そのことを、今回の市民公開講座を通じて気づき、早くから考えることの大切さを感じつつ、盛会のうちに安芸高田市医師会 会長 徳永先生の挨拶にて閉会しました。

今回で4回目ということもあり、市民の皆様にも浸透してきており、親しみを込めてコーラス・寸劇・講演を傾聴され大変満足して頂きました。ご参加・ご協力いただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



\* ACPとは…人生の最終段階にどのような医療・ケアを受けたいかを、本人が家族や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス。